

132-1 植木と花の安行へ(11.5km/14.5km)



安行自然の森

植木の産地として知られる安行を歩けば、四季折々さまざまな花や木々の緑に出会うことができるはず。そして、斜面林や樹木畑をつなぐ道すがら寺社を訪ねて当地の歴史を感じる道歩きをする。

【道順】

00 戸塚安行駅→01 西福寺・竹林の道→02 赤山城址→03 日枝神社→04 樹木畑道・安行氷川神社→05 花と緑の振興センター→06 興禅院→07 あゆみ野農協農産物直売所→08 川口緑化センター樹里安（道の駅川口・あんぎょう）→09 イチリンソウ自生地と斜面林→10 密蔵院→11 安行自然の森→12 平岡坂のケヤキ並木→13 峯が岡八幡神社→14 新郷峯八幡公園バス停（→15 新郷若宮公園→16 安行原の蛇造り→17 金剛寺→18 摂政の宮ご休憩所の碑→19 新井宿駅）

地図豆知識：安行の植木

「安行植木」は、川口市北東部の台地に発達するもので、全国一の植木・苗木の里といわれる。歴史的には、江戸時代から始まったもので、「安行植木」の祖と言われる吉田権之丞（1635～1703）は、農業に従事するかたわら、江戸の植木技術を安行に取り入れ、江戸の大火の後、苗木や花を江戸に運び、人気を博したという。権之丞の市場開発と庭木・苗木の生産が、植木生産地としての安行を開拓したのである。

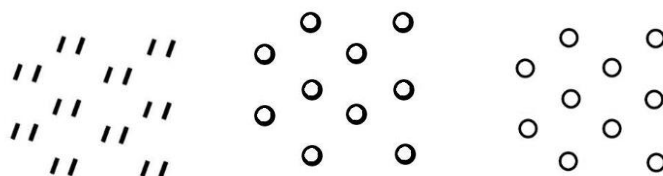
安行を中心とする、この地域はきわめて起伏に富んだ地形で、台地と傾斜地と低湿地にめぐまれている。斜面はさまざまな方向に位置し、日照や通風条件なども多様である。これは乾地性の植物・湿地性の植物・陽性植物・陰性植物など、各種の植木や苗木などの栽培に適し、さらに台地を覆う土壌（関東ローム層）は赤土で、通気性や排水性に優れ、木本植物など育てるのに適している。このように、種々の植木を栽培する条件に恵まれており、観賞用草花栽培や盆栽造りも盛んである。



明治 39 年・昭和 4 年



昭和51年・平成15年



(T6年まで ・ S30年まで ・ S30年から)

苗木などを植栽する「樹木畑」の地図記号

地図豆知識：伊奈氏の治水と利水

近世の土木史上に「伊奈流」の名を残す伊奈氏の事跡は、その支配地であった関東（旧武蔵国、現在の東京・埼玉・神奈川）のあちこちに残されている。

「伊奈流」の技術が十分に発揮されたのは、特に新田開発とそのための河川改修工事である。伊奈氏による関東諸河川の改修工事の代表的なものは、利根川の東遷および荒川の西遷である。これは、利根川と荒川の水系をそれぞれ切り離し、利根川を銚子沖へ流入させた利根川の東遷、そして荒川を入間川に付け替える荒川の西遷という、きわめて大規模なものだった。

また、自然の地形を最大限に利用し、労力を最小限に抑える「伊奈流」の土木技術は、改修河川の洪水対策にも見ることができる。自然堤防を利用するとともに、ところどころに低い堤防を作り、その付近に遊水池を設ける。大規模な増水の際には水をあふれさせ、遊水池に導いて水の勢いを弱める。遊水池は平常時には溜井となり、用水源として利用することができた。実例として見沼溜井とその南にある八丁堤（見沼通船堀）がある。

【街歩き解説】

01 西福寺

西福寺は、真言宗豊山派の寺で、弘仁年間(810 から 824)に弘法大師が国家鎮護のため創建したと伝えられる古刹である。寺内には、美しい三重塔と観音堂がある。



西福寺 三重塔

02 赤山城跡と赤山陣屋址

伊奈家初代・伊奈忠次は、荒川や利根川の改修をはじめとする治水・感慨事業や新田開発、検地の実施などに大いに手腕を発揮した。三代伊奈忠治は、関東郡代となり忠次からの事業を引継いだ。

赤山陣屋は、その伊奈氏が江戸幕府の直轄地を治めるためその任地に設けた役所の一つで、寛永 6 年(1629)頃伊奈家 3 代忠治によって創建されたもの。陣屋の中核部には、表御門・裏御門・御家形・御役家・御的場といった施設があり、北側と西側は二重の堀でかこまれていた。今は堀割が残っているだけだが、あたかも小さな城下町のような様子であった。

05 花と緑の振興センター

敷地面積は約 2.3 ヘクタールの中に本館建物と植木を中心とした 600 種 2000 品種にのぼる植物を展示している。主なものは、ツツジ類、ツバキ、ウメ、カエデなど多くの品種を収集し植栽展示しているほか、サクラソウの品種が 380 品種保存されている。

06 興禅院・ふるさとの森

興禅院は、天文 15 年(1546 年)に建立された曹洞宗の寺院で東側の斜面林のふもとは、清浄な湧水があり、近く祠には、弁財天がまつられている。参道沿いは、春は桜や石楠花、秋になると曼珠沙華や紅葉で美しい光景を見ることができる。

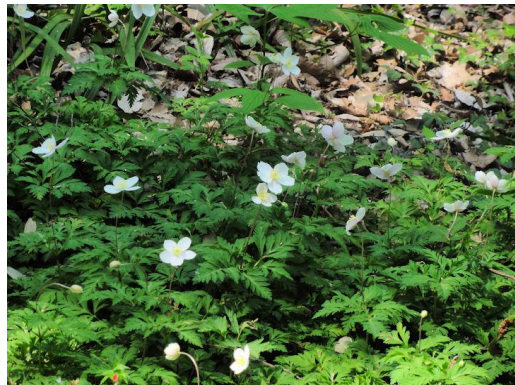
08 川口緑化センター 樹里安

川口緑化センター(ジュリアン)は、植木、花と造園などたくさんの草花と特産物があり即売している。また、道の駅としても利用されており、食堂や休憩所などのほか、建

物の外では大きな植木なども展示販売している変わり種。

09 イチリンソウ自生地（赤堀用水ふるさとの森）

イチリンソウ（一輪草）は、本州・四国・九州の山裾の草地などに生育するキンポウゲ科の多年生の草本。通常、3月中旬に葉が伸び始め、4月中旬から下旬にかけて開花、その後地下茎は休眠期に入る。自生地には散策道も整備されている。



植木畑・赤堀用水ふるさとの森

10 密蔵院と安行原自然の森

密蔵院は、文明元年（1469年）中興で、550余年の歴史と風格が感じられる。安行桜の名所として知られている。安行桜は、沖田雄司氏の研究改良によるもので、又の名を沖田桜とも呼んでいる。一般の桜の開花期よりも早く咲き出し、赤味を帯びた花色は艶やかでその華麗さは人々を堪能させるという。

ほかに、鐘楼堂写佛天上画、「板碑群」、平将門供養塔などの見所がある。

隣接して九重神社そして春、山吹が咲き乱れる安行原自然の森がある。

13 峯が岡八幡神社

峰ヶ岡八幡神社は、平安時代の天慶年間（938-947）に、源経基の創建と伝えられる。境内は広く本殿脇には樹齢600年余りの大銀杏があるほか、サクラ樹も多い。

16 安行原の蛇造り

川口市安行原の蛇造りとして知られているもので、毎年5月24日の夕方近所の人々が藁を持ち寄り、五穀豊穰、天下泰平、無病息災などを祈願して、長さ約10メートル蛇を作る。

一年間櫓の大木につけられていた蛇をおろし、各人がその蛇をみながら昨年と同様な蛇のかたちをつくり上げていく。これに密蔵院の住職によって書かれた祈願文をしっかりと結びつける。蛇造りが終わると、大櫓の股のところに頭を、胴を幹に巻き付けて安置し、百万遍の行事を行って、この祭は終わる。

17 金剛寺

金剛寺は、明応5年(1496)、安行の地名にいわれとなった豪族中田安齋入道安行(やすゆき)により開創された。安行の墓がある金剛寺参道の間地点には、生垣で区切られた一画があり、そこは小さな古墳上になっている。これは、経文を書写し、供養して、地中に埋納した経塚と呼ばれるもの。新井宿駅までの道すがら、摂政宮殿下御休息所の碑が立つ。

+* * *+ オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu +* * *+